



獨唱及合唱  
オルフオイス  
若狭万次郎の歌

クルツク  
若狭万次郎編作

若木

解説

○獨逸の大作作曲家グレット(C. W. Gluck 1714-1787)の名は歌劇の改革者、獨逸樂劇の建設者として不朽である。

彼は其大作を多く佛蘭西樂壇の爲に作つて居るので一般には怡も佛國の音楽家なるかの如く信ぜられてゐる。彼は一七六二年、歌劇オルフオイス(Orpheus)を作出するに及んで、はじめて從來の傳統から離れた所謂清楚、簡潔なる形式によつて自己の樂劇に對する年來の理想を實現して舊法な當時の歌劇作風の大革命を遂行したので、云はば本曲は近世獨逸歌劇の起點であり、他の傑作「アルツネスタ」や「イフィゲニー、イン、アウリス」其他の諸作と共に音楽史上重要な意義を有するものである。(因に、一七七四年作出の「イフィゲニー、イン、アウリス」の演奏は巴里樂壇に多大の衝激を與へ、遂に當時流行中の伊太利派全歌劇を樂壇より一掃してしまつた)

○オルフオイスは「音楽の名手にして一たび其琴を弾じて歌へば非情の草木、猛獸毒蛇も感動したりと傳へらるゝオルフオイス(Orpheus)が其妻(Eurydice)の死を悲しみ、其音楽の功力によつて幽界に下り、諸王鬼を感動せしめて再び妻に邂逅したり」と云ふ希臘の古神話に基きCalasbigeの作詩によつて作られたる三幕ものの歌劇曲であつた

○本曲は其第三幕目の最終。即アモールAionの殿堂に於て彼等兩人及びVibe等の獨唱と共に交互に村人等の合唱する華麗且愉快極無き終曲の讃歌であり、また歡喜の歌なので、全曲中最も華やかなる部分である。

○本曲の特にこの部分だけは、從來東京音樂學校其他の合唱團體等に於ても屢々演奏せられ來つゝあるので、今日に於ては全く極附の最も優れたる合唱曲として過く歡迎せられて居る。

昭和三年八月一日印刷  
昭和三年八月四日發行

(定價金參拾錢)

511	鶴が岡	三部合唱	レニーマン	原作	¥・50
512	御代のみ榮え	三部合唱	ヘンデル	原作	・30
513	鍛冶屋さんの唄	二部合唱	ヴェルディ	原作	・20
514	天地開闢	三部合唱	ハイドン	原作	・30
515	ローレライ	混声合唱	メンデルゾーン	原作	・30
516	乙女のまどひ	三部合唱	本居長世	作	・20
517	歓迎の歌	混声合唱	モツァルト	原作	・30
518	祝歌	混声合唱	ググネル	原作	・30
	(タンホイゼル太行進曲)	混声合唱			
519	紡ぎ歌	三部合唱	ググネル	原作	・30
	(さまよへる和蘭人より)	三部合唱			
520	夕ぐれ	三部合唱	アプト	原作	・20
521	春雨	混声合唱	澤田柳吉	作	・20
522	歡喜の歌	混声合唱	グルック	原作	・30
	(オルフオイスより)				
551	清流	三部合唱	ブラームス	原作	・15
552	秋の歡	混声合唱	メンデルゾーン	原作	・15
553	秋夜	二部合唱	ルビンスタイン	原作	・15
554	埠頭の別	二部合唱	メンデルゾーン	原作	・15
555	別れ	三部合唱	クルシュマン	原作	・15
801	春興	三部合唱	モツインギー	原作	・50
	(絃樂伴奏付)				
802	歡迎の歌	混声合唱	モザート	原作	・50
	(グロリア)				

編者 若狭万次郎  
發行所 東京市芝區松本町四十四番地  
發行所 東京市芝區松本町四十四番地  
印刷者 白井保男

發行所 東京市芝區松本町四十四番地  
會社 共益商社書店



Chor mit abwechselndem Solo

歌劇オルフェウス中の獨唱及合唱曲

(喜の歌)

Chr. Gluck. 原曲  
M. Wakasa. 編曲

Allegro Leggiero.

Piano accompaniment for the first system of the 'Song of Joy'. It features a treble and bass clef with a 2/4 time signature. The music is in D major and includes various rhythmic patterns and dynamics such as *p* and *f*.

A. Orpheus.

Vocal line for Orpheus in the first system. The lyrics are: Tri - umph sei A - mor, und Al - les, was da le - bet, schmück' der yo - ro - ko - bi no no ni u ta ha n ka mi -

Piano accompaniment for the second system of the 'Song of Joy'. It includes two first endings (I. and II.) and continues the musical themes from the first system.

Vocal line for the chorus in the first system. The lyrics are: wen sie ent - zü - cket, brin - get zum O - pfer gern sein Herz ihr  
ひ の こ の - ひ み か - み - の - め - く -

Piano accompaniment for the second system of the 'Song of Joy'. It continues the piano accompaniment from the first system.

Vocal line for Amor in the second system. The lyrics are: Wund durch Lau - nen und sprö - des Zür - nen seuf - zet oft  
く る し - み - な や み - は - あ と -

Piano accompaniment for the third system of the 'Song of Joy'. It includes two first endings (I. and II.) and continues the musical themes from the previous systems.



Ein - tracht wie - der, wan - delt in Won - ne sich jeg - li - cher  
 こ こ ろ に ふ た た び も と

Schmerz, wan - delt in Won - ne sich jeg - li - cher Schmerz.  
 の さ ち に ぞ か へ る

(直にコーラスDに繋げる)

**C. Euridice.**  
 Ei - fersucht schlägt oft her - be Wun - den, doch zur  
 み か み の み め ぐ み に か な

Treu' führt stets sie zu - rück; Arg - wohn, den das  
 し み う れ ひ あ と な く

Herz hat em - pfun - den, mehrt, ent - flie - hend, der Lie - be  
 き え て た の し き は る

Glück, mehrt, ent - flie - hend, der Lie - be Glück.  
 は ふ た た び か へ る

(直に次のコーラスへ)

**D. Chor.**  
 Tri - umph sei A - mor, und  
 トリ ウムフ ザイ ア モル ウント

よ ろ こ び の そ

**D. Tutti.**



Al - les, was da le - bet, schmück' der Schön - heit Göt - ter - al - tar; ja,  
 の に う た は ん か み - の め - ぐ - み - に - う  
 か み の め

wen sie be - glü - cket, wen sie ent - zü - cket, brin - get zum  
 れ した の - し け の こ の - ひ み か -

Opfer gern sein Herz ihr dar, brin - get zum O - pfer gern sein Herz ihr  
 み - の - め - ぐ - み - た た へ ま つ ら -

dar. dar. Tri - umph sei A - mor, und Al - les, was da le - bet,  
 ん ん と り う - た ひ は な も ゑ み - て た

I. II. III. Allegro.  
 I. II. III. Allegro.



# 歡喜の歌

犬童球溪

A(オールフォイス)獨唱 歡喜の園にうたはん

神の恵に嬉し樂し今日のこの日

み神の恵讀へまつらん。

(合唱 同前)

B(アモール)獨唱 苦しみ惱みは跡なく消えて

誠實の心に再び元の幸福にぞかへる。

(合唱 折返)

C(ユーリディス)獨唱

み神のみ恵に悲しみ憂ひあとなく消えて

樂しき春は再び回へる。

(合唱 折返)

(終曲)鳥うたひ花も笑みて樂しみの春はかへる

み神の恵 讀へまつらん。

schmück' der Schön-heit Göt-ter-al-tar, schmück' der Schön-heit

の し-み の は る は か へ- る - み か み の

Göt-ter-al-tar, schmück' der Schön-heit Göt-ter-al-tar.

め く み た た へ ま つ ら ん

(「備考」 最後ノb小節ヲa小節ノ如クニ歌ハシムルモ可ナリ)